講 演 抄 録

W.C. イーストレーキとフリーメーゾン

今 田 見 信*

W.C. Eastlacke が，待望の Free Mason に入会がかなったのは，慶応元年（1865）7月28日で，日本から支那にわたり，上海に在留していた時代のことである．

私の旧著（W.C. イーストレーキ先生伝，36P）には「フリーメーゾンに加盟」と題して次のように書いている．

“イーストレーキ先生は，北米合衆国に在った時代から，Free Mason に加盟する事を希望されていたのであったが，許されず東洋に来られたのである．当時上海に支局があって，先生の上海出張中，先生の熱心なる態度と人格に支局長が信頼して，先生を推薦した結果，1865年7月28日（メーソン年号5865年）漸く加盟が許され，その翌1866年11月28日にはメーゾンの第3級に列せられた．イーストレーキ先生は，終始この上海支局の所属だったのである．

このメーゾンは英国皇太子を以て主宰とするもので，近代に至り貴官富者の加盟漸次増加し，世界的に勢力を張りつつある頃で，イーストレーキ先生は，これに加盟されたことを，非常な名誉として誇られていたのである．

このフリーメーゾンは，現代の日本におけるロータリークラブのような，権威のある国際的な一の結社で，その結社員は宣誓し，しばしば暗号を使ったために，秘密結社と目して難ずるものもあるが，しかしその勢力は実に大なるものであって，政治家はフリーメーゾンに加わることを，立身の必須条件とした程だから，以てその威力を想像することが出来るだろう．

フリーメーゾンに加盟したことがいかに先生が，世界各地を旅行される上に便利が多かったかは，想像にあまりある点である”

上の原稿を書いた昭和10年頃は，私自身に Free Mason の知識もなく，自然と理解しかねたところも多かった．その頃は世界的な秘密結社と見られていたために，わが陸軍でも注目したとみえて．私にイーストレーキ家から資料を借出させて，全書類を参謀本部が参考にした事実もある．その中には Free Mason の全貌を知るに足る詳しい解説書もあったが，私は盗写も盗読もせず返してしまった．今では残念に思っている．

W.C. イーストレーキがこの小鞄を膚身離さず携帯したとみえて相当にくたびれていた，鞄の表には，ROYAL SUSSEX LODG No. 501 SHANGHAI と印刻されていた．

図 1 書類入小鞄

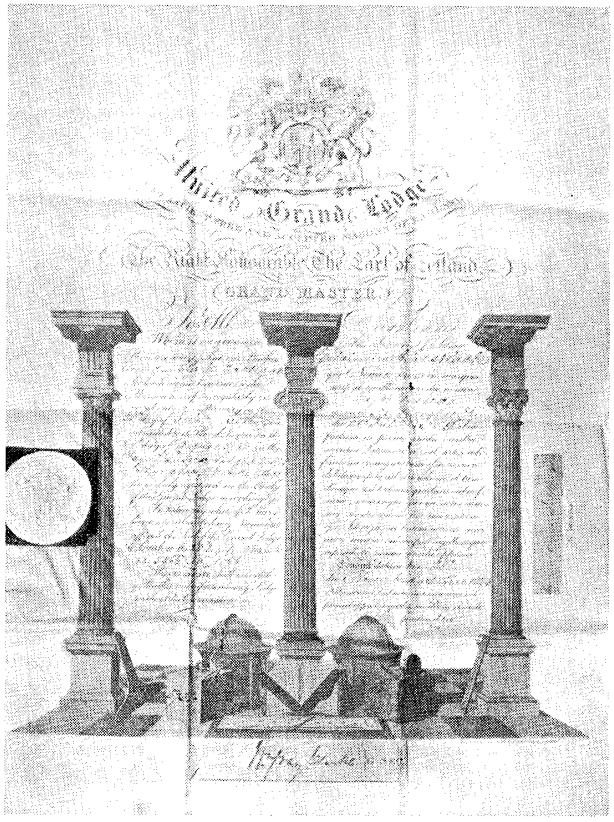
私の手元にある現存資料のなかで，イーストレーキ家で私が写しおいたものをお目にかける．そのほか LIFE Vol. 33 No. 7 に Free Masonry の諸様式のはなやかな場面が，沢山紹介されているから参照されたい．

Free Mason とは何か

Free Mason の解釈については，辞典によって多少違いがあるが，綜合して私は次のように説明している．

“Free Mason は18世紀の初め，1717年にイギリスにおこった，世界市民主義的自由主義的な友愛組織である．その母胎となったのは，大規模な教会建築と結びついて発展した，石工（Mason）のギルトだった．はじめは，この石工の仲間達の相互扶助を目的として結成したものであった．

* Kenshin IMADA 本会理事



UNITED GRAND LODGE OF ANCIENT
FREE AND ACCEPTED MASON OF ENGLAND
THE RIGHT HONOURABLE THE EARL
OF ZETLAND
GRAND MASTER

To All whom it may concern these are to certify that our Brother WILLIAM CLARK EASTLACKE who hath signed his name in the Margin hereof was regularly received into Fred Masonry on the 28th day of July A. L. 5865 & was admitted the THIRD Degree on the 28th day of August 5866 in the ROYAL SUSSEX LODGE No. 501 SHANGHAE, CHINA & that he is duly registered in the Books of this Grand Lodge accordingly.

In testimony whereof I have hereunto subscribed my Name and affixed the Seal of the Grand Lodge. At London the 28th day of November A.L. 5866. A.D. 1866

This certificate shall not entitle a Brother to admission into any Lodge without due Examination.

英国古代フリーメイスン
グランドロッジ連合
ツェトランド伯爵閣下
支部長

ここに記名のわが国兄弟ウィリアム・クラーク・イーストレーキは正式に A. L. 5865 7月28日フレッド・メイスナリーに入会し中国上海のロイヤルサセックスロッジ No. 501 に 5866年8月28日第3級を許可された，よって当グランドロッジの帳簿に確かに記録されたことを証明するものである．

証明としてここに私の名前を署名し，グランドロッジの紋章印を押すものである．A. L. 5866A. D. 1866年11月28日ロンドンにて

当証明書はしかるべき試験なくしていかなるロッジにも入会許可の資格を兄弟に与えるものではない．

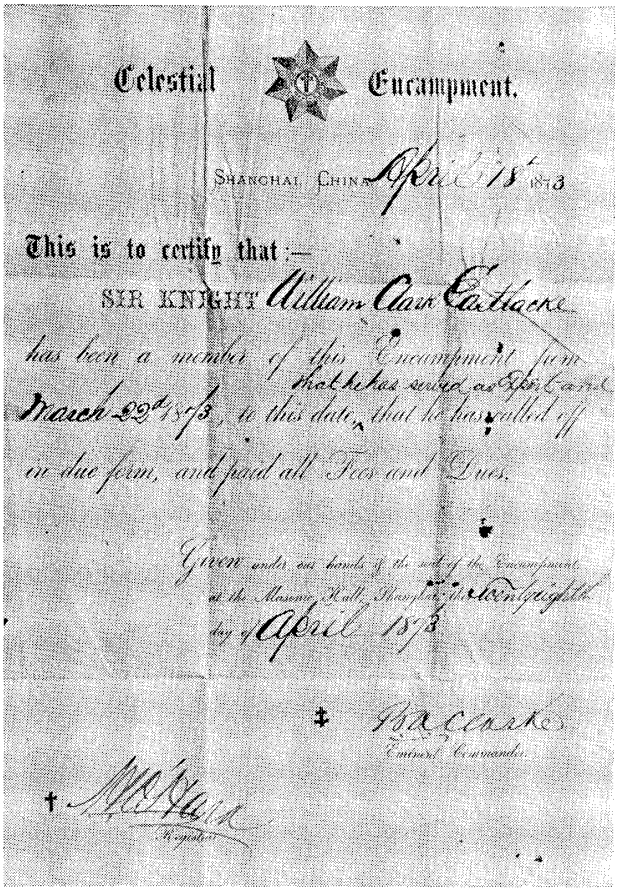
"当証明書は試験なくして，いかなるロッジにも入会許可の資格を与えるものではない" と添書がある．そこで年後の1873年上海で試験を受けたわけである．

英国の本部が発行した入会証明書である．向って左側は英語，右側はラテン語で書かれている．

図2　入会証明書

聖書を用いる儀式をもち，友愛善行を重んじたことや，秘密遵守を厳にし，符牒や合言葉を用いたので，秘密結社扱いを受けた時代もあった．

近世に入って，寺院の建立が減るに伴い，自然にギルトの性格がうすれ，次第に精神的なものに変質した．そして石工のほかに，インテリ層を仲間に沢山吸収するようになって急に拡大するようになり，イギリスの国土の膨張や，地球支配というように，イギリスの国威がたか



Celestial Encampment.

SHANGHAI, CHINA April 18 1873

This is to certify that:—

SIR KNIGHT William Clark Eastlacke

has been a member of this Encampment from March 22d 1873, to this date, that he has served as Expert and that he has called off in due form, and paid all Fees and Dues.

Given under our hands of the seal of the Encampment at the Masonic Hall, Shanghai, this twenty eighth day of April 1873.

Eminent Commander.

Recorder.

CELLSTIAL ENCAMPMENT

SHANGHAI, CHINA, April 18 1873

This is to certify that:—

SIR KNIGHT William Clark Eastlacke has been a member of this Encampment from March 22nd 1873, to this date that he has served as Expert and that he has calleds off in due form, and paid all Fees and Dues.

Given under our hands & the seal of the Encampment, at the Masonic Hall, Shanghai this Twentyeighth day of April 1973

セレスチャル　インキャンプメント

（天上野営地の意）

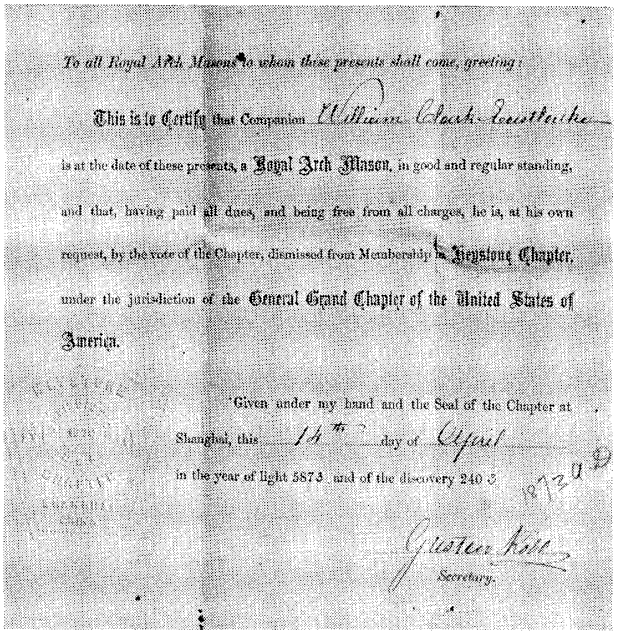
上海，中国　1873年４月18日

サー・ナイト・ウィリアムイース・トレーキは1873年（明治６）３月22日より今日まで当インキャンプメントのメンバーであり専門家として奉仕し正式にやめ，全ての費用，義務を払った事をここに証明する．

1873年４月18日上海マソニックホールインキャプメントの署名・捺印を下記に記す．

図２のロッジに配属するため“しかるべき試験”を受けた証明書である．

図３　ロッジ試験を受けた証明書



To all Royal Arch Masons to whom these presents shall come, greeting:

This is to Certify that Companion William Clark Eastlacke is at the date of these presents, a Royal Arch Mason, in good and regular standing, and that, having paid all dues, and being free from all charges, he is, at his own request, by the vote of the Chapter, dismissed from Membership in Keystone Chapter, under the jurisdiction of the General Grand Chapter of the United States of America.

Given under my hand and the Seal of the Chapter at Shanghai, this 14th day of April in the year of light 5873 and of the discovery 2403

Secretary.

To all Royal Masons to whom these presents shall come greeting:

This is to Certify that Companion William Clark Eastlacke is at the date of these presents, a ROYAL ARCH MASON in good and regular standing, and that, having paid all dues, and being free from all charges, he is, at his own request, by the vote of the Chapter, dismissed from Membership in KEYSTONE CHAPTER, under the jurisdiction of the GENERAL CHAPTER OF THE UNITED STATES OF AMERICA.

Given under my hand and the Seal of the Chapter at Shanghai, this 14th day of April in the year of light 5873 and of the discovery 2403.

本証書を受け取る全ロイヤルメイソンに：

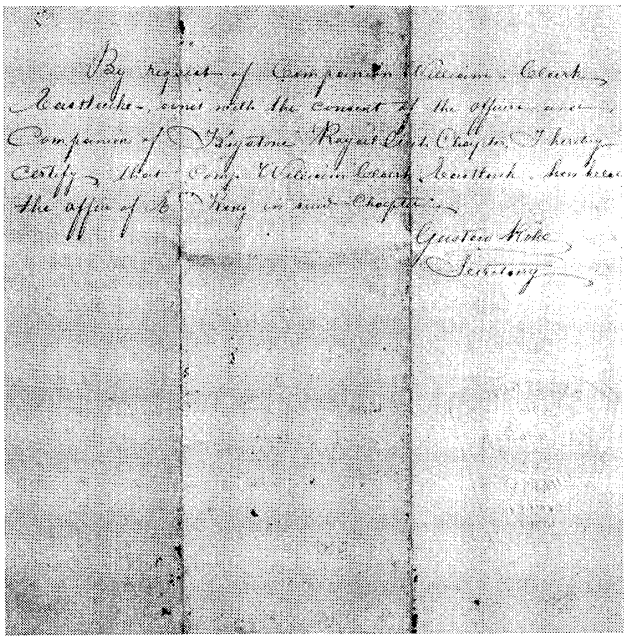
同志ウィリアム・クラーク・イーストレーキはロイヤルアーチメイソンとして相当の立派な身分であり全ての義務を遂行し，責任から自由になり，本人の希望によりチャプターの投票でアメリカ合衆国総合チャプターに属するキーストーン・チャプターの会員をやめる事を当証書の日付をもって証明するものである．光年5873年および創見2403，４月14日上海にて＜チャプターの署名・捺印を下記に記す＞

図４　責任から自由になった証明書

まるにつれ，国際的な友愛組織に発展していった．

今も建築を観念化した槌，定規，コンパス，鈴錘，寺院の柱，寺院の旗や記章などが Free Mason の会員証に残っているのは，Free Mason の儀式の肥大した面影を物語るものとして興味深い．

Free Mason の儀式や服装は，スコット儀礼とヨーク儀礼に大別され，階級や構造も多少違っているようだ，イーストレーキが獲得した階級は第３級の（Master



By request of Companion William Clark Eastlacke, and with the consent of the officer and Companion of Keystone Royal Arch Chapter, Thereby certify that Com. William Clark Eastlacke has held the office of E. King in said chapter.

同志ウィリアム・クラーク・イーストレーキの希望とキーストン・アーチ・チャプターの幹事と同志の承認によりここに同志ウィリアム・クラーク・イーストレーキは当チャプターにおける英国王の職務を果した事を証明する．

図 5　職務を果した証明書

Mason）であった．ここまでは一般人は進めたようである．さらに第3級以上に昇級したい者は，スコット儀礼か，ヨーク儀礼かの何れかに入って，定められた試験や面接を経て一級ずつ昇級していく．

スコット儀礼は，フランスのスコット人移住者によって始められ，ヨーク儀礼は最初に Mason 組織を作った，ヨーク（英国王）にちなんだものである．イーストレーキは家歴からいって当然ヨーク儀礼を望んでいたと思われるが，死亡するまで第3級以上には昇級しなかったのではあるまいか．

Mason には，スコット儀礼は30，ヨーク儀礼は33の階級があって，昇級の難路は山石太郎著「人間と世界の改造者—楽園を創るフリーメーソン物語」（昭和42年6月，英出版社刊）をみると概要は知られる．その本では佐伯富士郎が大正2年（2919）香川県の醸造，運輸，倉庫，金融業の旧家に生れ，昭和11年（1936）東大法科卒業後，マルセーユに行って Masonry となり，昭和18年（1943）長老，昭和40年（1965）昇天するまでの難関突破の全行動を述べている．参考になろう．

イーストレーキが Free Mason に入会を望んだ時代は，アメリカの指導的立場にいた自由主義的知識人が，多数こぞって加盟した頃である．特に南北戦争中に巨大拡大したことを思うと，イーストレーキの青年時代はまだ Free Mason は庶民化していないから，彼の意欲も薄かったに相違ない．

イーストレーキが，東洋を遍歴中に Free Mason は急速に拡大していった．成人男子12人に1人（アメリカ男子のほぼ400万人）というように一種の愛国運動として非常な勢で拡大した．1861年の南北戦争の始まったときのアメリカでは，Free Masonry は20万人だったが，戦争中に100以上の軍のロッジが作られ1900年には80万人を越える勢になった．ジョージワシントンからトルーマンに至るまで，Masonry の中から13人も大統領が出たことは，いかに Free Mason の組織が強大であったかが判る．そして「熱心な敬虔な献身的な人間で，お互は兄弟のように助け合い“根本的な真実，性格の安定，保守主義および善良な市民意識を促進する傾向の遵守”を学ぶことを信じ合っている」という組織だからイーストレーキのように外国を廻遊する人は，Free Mason こそ喝望の的であったに相違ない．

Free Mason 史はヨーク家と深い縁のある英国植民者によって，アメリカに移植発生したものである．1730年頃だという．とりもなおさず W. C. イーストレーキの父 Richard Wills Eastlacke がアメリカに移住した半世紀前のことだ．しかし父は Mason に深い関係がなかったようである．

日本の Free Mason 史話

日本の Free Mason は，慶応1年（1865）横浜ではじめて紹介され，明治2年（1869）には同地に会堂が出来たと社会科学大辞典に書いてあるが，誰がどういう形で紹介したかは判っていない．

ベルギーの貴族で，わが国の明治維新史に深い関係のあるシャルル・ド・モンブラン Montblanc（伯爵）はブリッセルの Mason のメンバーである，主邸はブリッセル市で，インゲルムンステルに城館ももっている．現在も城館はそのまま保存されているということだ．1861年10月と1867年の某月に来日している．

フランスのナポレオン3世が，レオン・ロッシュ駐日公使に，小笠原長行，小栗上野介などを通じて徳川幕府の財政と軍事に協力させたことは周知の通りだ．これに反しモンブラン伯は，薩摩藩の五代才助に接して討幕に参画し．明治維新の影の立役者となった．モンブラン伯

が，パリで日本人にはじめて接触したのは，徳川幕府の特派使節団池田筑後守一行だったが，特に五代才助に傾倒したことは面白い．

慶応3年（1867）パリの万国博覧会のとき，徳川幕府の出品のほかに，薩摩藩は「薩摩琉球国」という名称で出品して幕府を驚天させた．さらに薩摩勲章を作ってフランスの要路に贈った（この薩摩勲章は現在もブリッセルのモンブラン邸と鹿児島市集成館に保存されているという）

モンブランは，五代才助を福沢諭吉と親交のあった親日家レオンド・ロニーをはじめ，多くのFree Masonryに紹介した．また日本とベルギーの合弁会社設立許可を，ベルギー外務次官からとりつけ，ブルッセルで仮契約を結んだりした．そんな功績によって明治政府が成立すると，モンブランは「天皇陛下の命により日本国代理公使兼総領事に任ずる」という辞令を貰った．

辞令を受けたモンブランは，パリ市のナポリ町に「日本公使館」を開き，日本へヨーロッパの情報を流してくれた．普墺戦争のときは，日本公使の資格でベルサイユに滞在したことも明かである．

日本公使となったモンブランは，日本紹介のためにレオン・ド・ロニーと計って私財を投じ，社団法人「日本文化研究所」を創立し会長となり，ロニーを副会長として日欧文化交流につくした功績は大きい．

レオン・ド・ロニーは，1837年（天保8年）フランス北部のロースで生れた，父は生物学の教師，ロニーは植物学を志してパリーに出た．ロニーがスタニラス・ジュリアンの講義を聞くうちに，東洋に興味をもつようになり，漢学を習得，中国語，日本語を学び，古事記や，日本書記，日本外史などを読んだことは有名な話である．

1862年（文久2年），幕府の遣欧使節，竹内下野守一行がフランスを訪れた際，ロニーは25歳で，ナポレオン3世の命をうけて通訳をつとめた．その後も通訳をよくつとめたようである．

1864年（元治元年），渡欧した池田筑後守の復命書に“フランス人羅尼（ロニー）と申すもの，竹内下野守一行のものより懇切な待遇を蒙り候よし”と記していることは，その間の事情を物語っている．

1867年（慶応3年）のパリの万国博覧会では，ロニーは科学委員として活躍した．福地源一郎，栗本瀬兵衛にフランス語を教え福沢諭吉とも親交した．

日本文集，詩歌選集，日本語考，日本語会話案内．日本文化論など，72点の日本関係の著書を出したが，1914（大正3年）8月28日，77歳で死亡した．

ひとりフランスだけでなく，ヨーロッパ各国，アメリカにおいてFree Masonryの協力によって，日本文化が世界の水準に達したことはいうまでもない．

日本に来た外人歯科医の第一号であるイーストレーキの生涯を楽しいものにし，光輝あるものにしたのは，先生が世界に威を張ったFree Masonryの兄弟達の友愛によるところが，極めて多いことを感じないわけにはいかない．（1972．7．10．記）

パーキンス先生の令孫マグーン教授と会して

瀬　戸　俊　一*

まえがき

パーキンス先生のご家系については，既刊の成書では不明の一語に尽きる．昭和46年4月5日，カリフォルニア大学大学院部長Magoun教授が，日本政府より勲2等瑞宝賞を贈られるに当り来日された．この機会を利して，日本医史学会総会において“神経学の発達における脳研究所の演じた役割”の題の下に，特別講演をされた，ことは衆知の通りである．その折神田学士会館において，今田見信，河村洋二郎，谷津三雄の諸氏ならびに筆者も加わって，寸暇の語らいが行なわれた．その節パーキンス先生のご家系についてが，主題であったことはもちろんである．しかしながら，あまりにも短時間であったため，十分な成果が得られなかったことは，まことに残念であった．その後，河村洋二郎氏が渡米され，Magoun教授に合われることを知り，同氏を通じ，なお詳細を知り得たいとの希望を示したところ同先生快諾せられ，その結果，Magoun教授より今田氏に書簡があり，その資料を筆者に渡されたことにより，ここに代弁することの栄に浴したわけである．

* Shunichi SETO　医歯大非常勤講師